

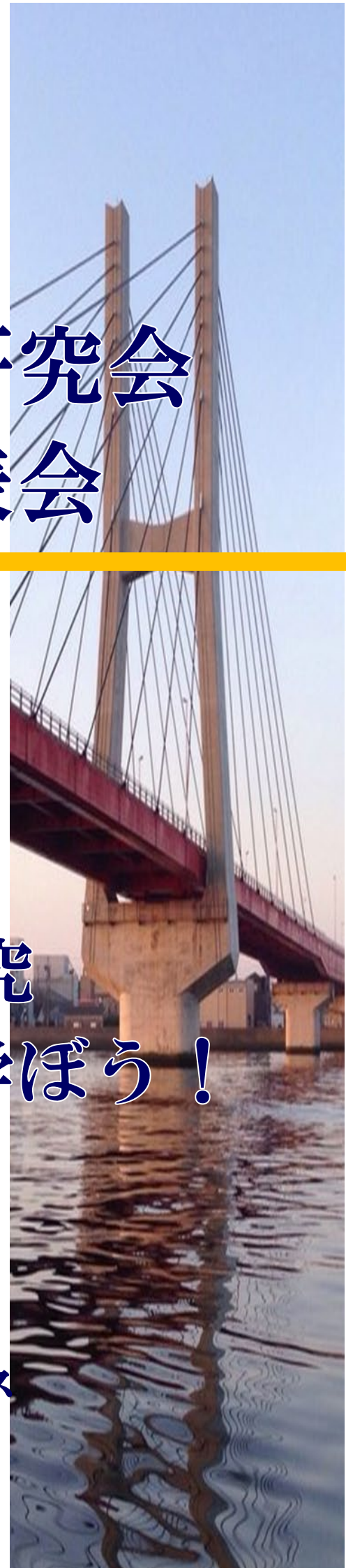
# 第8回 看護実践連携研究会 研修会 & 発表会

## 報告書

テーマ

Let's看護研究  
看護研究の基本を学ぼう！

- 日時 2021 11/27 (土)  
9:00~12:00(8:30~Zoom開場)
- 場所 千葉科学大学 マリーナキャンパス  
看護学部棟 6102・6103教室





## 巻 頭 言

### 第8回看護実践連携研究会&発表会によせて

第8回看護実践連携研究会にご参加いただき誠にありがとうございます。

今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策としてオンデマンド配信で開催いたします。

今回の研修会は、「Let's 看護研究 - 看護研究の基礎を学ぼう -」をテーマに、質的研究の基礎について、東京慈恵会医科大学 医学部看護学科教授 谷津裕子先生にご講演いただきます。

看護実践の場においては、数値化できない現象も多く、質的研究を蓄積していくことが重要だと考えます。一方、質的研究は、客観性や普遍性を保つ難しさもあります。質的研究について基礎的な知識を深め、看護実践を担う多くの方に研究に取り組んでいただくきっかけになれば幸いです。

また、例年通り、看護研究に取り組んだ皆様から研究成果を発表していただきます。研究の成果や実践活動を共有し、コロナ禍に立ち向かう今、地域における看護職者の連携がさらに深まる機会になることを期待しております

地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院  
看護局長 大塚玲子

## 巻 頭 言

### 第8回看護実践連携研究会&発表会によせて

晩秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。皆様には本学部の教育・研究に多大なご協力をいただき深く感謝申し上げます。

ワクチン接種率の高まりとともにようやくCOVID-19新規感染症者数が減少してきました。しかしながら、イギリスのようにブレイクスルー感染者が増加している国もあり、世の中が経済を回すことに関心が向いている中でも、医療・保健現場ではまだまだ安心できない毎日を送っていらっしゃると思います。今後は1次予防（感染予防行動）、二次予防（PCR検査等の拡充）に加え、3次予防として後遺症で苦しむ方への総合的な対応策や、重症化を防ぐ新薬の開発が期待されるところです。本学では7月から10月に職域ワクチン接種センターを設置し、地域接種も含めるとほとんどの教職員・学生がワクチン接種を完了しました。教員が接種等を担当したことは、安全な教育環境を守り、安心して実習に送り出すことができるという意義だけではなく、学生にとって看護師のわざ（専門性）のすばらしさを体験する機会になったと思います。その他に実習施設でワクチン接種をしていただいた医療機関もあり、皆様のご協力に感謝しています。

さて、第8回の看護実践連携研究会の研修会テーマは「Let's 看護研究—看護研究の基本を学ぼう！—」です。東京慈恵会医科大学の谷津先生をお迎えして、質的研究についてのご講演をいただきます。どのような研究（疑問）が質的研究に適しているのか、質的研究の分析方法はどのように行うのかなど、質的研究はよくわからないという方も多いと思います。改めて基本を学びましょう。

また、忙しい中に研究時間を確保して取り組んだ研究の発表もあります。真実を追究したい、より良い看護を導きたいという熱意と努力に頭が下がる思いです。

本日の研修会&発表会が皆様の明日への意欲につながることを祈念し挨拶といたします。

千葉科学大学看護学部  
学部長 安藤智子

# 目次

---

目次 .....	1
プログラム .....	1
研修会&発表会 当日の様子 .....	3
講演 質的研究とは—質的研究の uniqueness— .....	5
研究報告 .....	6
演題 1 .....	7
演題 2 .....	8
演題 3 .....	9
演題 4 .....	10
演題 5 .....	11
演題 6 .....	12
参加者アンケート集計結果 .....	13
ご案内施設一覧 .....	16
看護実践連携研究会 役員名簿 .....	20
看護実践連携研究会 企画・実行委員 .....	21
看護実践連携研究会のあゆみ .....	22
看護実践連携研究会 申し合せ .....	25

# プログラム

時間	内容
8:30～	Zoom ミーティング開場
9:00～9:05	オリエンテーション 司会：千葉科学大学 看護学部 准教授 久木元理恵
9:05～9:10	開会の挨拶 国保旭中央病院 看護局長 大塚玲子
9:10～10:40	講演 質的研究とは—質的研究の uniqueness— 講師 東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 教授 谷津裕子
研究報告	
10:45～11:10	演題1. COVID-19感染症患者の臨死期前後の家族の心情を知る —遺族インタビューからの一考察— 所属 国保旭中央病院 ○清水里香 篠崎舞 宮本紫帆
	演題2. 看護師が高齢者の特徴を理解し行動変容することで患者が麻酔を 安全に受けるための取り組み 所属 国保旭中央病院 ○品田まみ 加賀原和輝 香取良美 秋葉由美
11:10～11:30	演題3. 日常生活における高齢者の終末期医療・ケアに対する備えの検討 所属 千葉科学大学 看護学部 ○森下恵美 高橋方子 梶原睦子
	演題4. 養護教諭講師1年目の想い 所属 千葉科学大学 看護学部 ○大塚朱美
11:30～11:55	演題5. 新型コロナウイルスワクチン接種に対する看護大学生の自己決定 に影響する要因 所属 千葉科学大学 看護学部 ○石田直江 富樫千秋 高橋方子

---

演題6. 新型コロナウイルス感染症により学内実習となった基盤看護学  
実習Ⅰに対する学生の思いと今後の課題

所属 千葉科学大学 看護学部  
○高橋方子 富樫千秋 米倉摩弥 鈴木康宏  
大塚朱美 石田直江 菅谷しづ子

座長：千葉科学大学 看護学部  
教授 高橋方子

---

11：55～12：00 閉会の挨拶

千葉科学大学 看護学部学部長 安藤智子

---

# 研修会&発表会 当日の様子



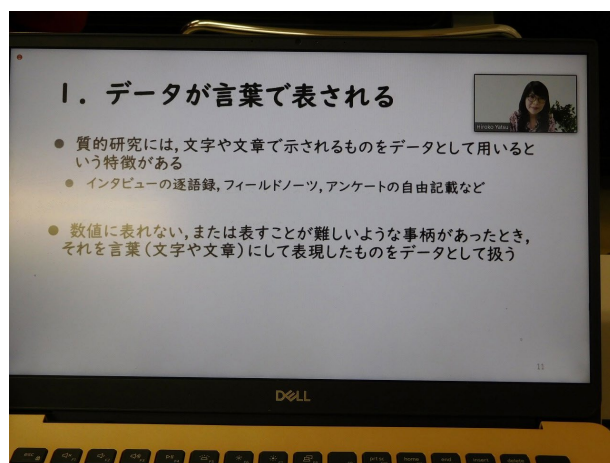
千葉科学大学マリーナ・キャンパス



会場の様子



開会の挨拶



谷津裕子先生ご講演



研究報告



研究報告



# 研修会&発表会 当日の様子



研究報告



研究報告



閉会の挨拶



会場の様子



Zoom操作



Zoom操作

## 講演

# 質的研究とは —質的研究の uniqueness—

## 講師

東京慈恵会医科大学  
医学部看護学科

教授 谷津 裕子

### 谷津先生の御紹介

谷津先生は日本赤十字看護大学を卒業され、その後臨床で助産師として看護実践に携わられました。そして日本赤十字看護大学の修士課程、博士課程を修了され、同大学に長く勤められました。さらにその後イギリスのグラスゴー大学の修士課程で動物の心理的・身体的安寧を探究する動物福祉学を修められ、2018年度から現在にいたるまで東京慈恵会医科大学医学部看護学科の教授を務められております。

谷津先生は皆様にご紹介した「Start Up質的研究」のほか「質的看護研究の基礎づけ」「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」など質的研究に関して多数の著書がございます。

質的研究は取り組みやすそうだけれど実際に取り組むと難しいと思うことが沢山あります。本日は質的研究の第一人者である谷津先生の御講演いただき、皆さんとともに質的研究の基礎を学びたいと存じます。

\* ご講演の参考資料は、以下の通りです。

○谷津裕子著：Start Up 質的看護研究 第2版，学研メディカル秀潤社

ISBN 978-4-7809-1181-7

○マーガレット・サンデロウスキー著/ 谷津裕子+江藤裕之著・訳：質的研究をめぐる10のキークエスション：サンデロウスキー論文に学ぶ，第8・9章，（医学書院）

ISBN 978-4-260-01895-1

# 研究報告

---

---

座長：千葉科学大学看護学部 教授

高橋 方子

---

## 1 COVID-19 感染症患者の臨死期前後の家族の心情を知る

－遺族インタビューからの一考察－

国保旭中央病院

清水里香、篠崎舞、宮本紫帆

---

## 2 看護師が高齢者の特徴を理解し行動変容することで患者が麻酔を安全に受けるための

取り組み

国保旭中央病院

品田まみ、加賀原和輝、香取良美、秋葉由美

---

## 3 日常生活における高齢者の終末期医療・ケアに対する備えの検討

千葉科学大学 看護学部

森下恵美、高橋方子、梶原睦子

---

## 4 養護教諭講師 1年目の想い

千葉科学大学 看護学部

大塚朱美

---

## 5 新型コロナウイルスワクチン接種に対する看護大学生の自己決定に影響する要因

千葉科学大学 看護学部

石田直江、富樫千秋、高橋方子

---

## 6 新型コロナウイルス感染症により学内実習となった基盤看護学実習 I に対する学生の思いと

今後の課題

千葉科学大学 看護学部

高橋方子、富樫千秋、米倉摩弥、鈴木康宏

大塚朱美、石田直江、菅谷しづ子

---

## 演題 1

# COVID'19感染症患者の臨死期前後の 家族の心情を知る －遺族インタビューからの一考察－

地方独立行政法人総合病院旭中央病院

○清水里香 篠崎舞 宮本紫帆

A病院では、2020年2月よりCOVID-19感染症患者の受け入れを開始した。症状が軽快して退院する患者もいるが、死に至るケースも多いことから、家族へは入院して間もなくに最悪を考えた説明がされていた。その時の家族がどれほど傷つき、何を思い望んでいるのかを知る必要があると考えた。死と向き合う正常なプロセスを踏めない状況は、複雑性悲嘆を引き起こすリスクが高いといわれているが、遺族の心情等についての調査報告は少ない。

今回、B病棟で死亡退院されたCOVID-19に感染し、死亡した患者の遺族へ電話でインタビューを行った。そこから、臨死期前後の家族の心情を知ることができ、今後の援助方法について考えることができた。

本研究における利益相反はない。

## 演題 2

### **看護師が高齢者の特徴を理解し 行動変容することで患者が麻酔を 安全に受けるための取り組み**

地方独立行政法人総合病院旭中央病院

○品田まみ 加賀原和輝 香取良美  
秋葉由美

医療が進歩し、手術を受けることができる高齢者は増加している。高齢患者は、理解していなくても医療者の問いかけに対し返答したり、理解するまでに時間がかかり理解した瞬間にその指示に従い急な動作をとってしまうなどの特徴があり、硬膜外カテーテル留置や腰椎麻酔の体位変換時に危険を感じるがあった。高齢患者の安全確保は重要であるが、高齢者の特徴を理解しないまま関わっている看護師もいるという現状があり、看護師が高齢患者の特徴とかかわり方を理解する必要があると考えた。

A病院看護局「看護師クリニカルラダー」Ⅰ～Ⅱの手術室看護師30名を対象に高齢患者の特徴及び関わり方について勉強会を開催し、看護師の行動調査とアンケート調査、患者の危険行動調査を行った。

勉強会后、看護師の行動変容がみられ、高齢患者が危険行動なく硬膜外カテーテル留置・腰椎麻酔を受けることにつながった。

本研究における利益相反はない。

本発表は第32回日本手術看護学会関東甲信越地区で発表したものである。

## 演題 3

# 日常生活における高齢者の終末期医療・ケアに 対する備えの検討

千葉科学大学 看護学部

○森下恵美 高橋方子 梶原睦子

【目的】本研究は、文献検討により「日常生活における高齢者の終末期医療・ケアに対する備え」（以下、《備え》）を明らかにすることを目的とした。

【方法】文献の検索は『医学中央雑誌』のWeb版を使用した。《備え》に関連する内容が記載されていると筆者が判断した17文献を対象とした。各論文から《備え》を抽出し、内容の類似性から分類し、さらにそれらを緊急性で分類した。

【結果】《備え》は『家族との交流』、『地域における交流』、『公的サービスの把握』、『健康管理・主治医に関すること』、『費用に関すること』に分類された。『家族との交流』は「家族との交流」、「代理で判断する人についての家族との話合い」があった。『地域との交流』は「地域の人と交流する機会」、「身近なところで見守ってくれる人の存在」があった。『公的サービスの把握』は「高齢者支援課の役割の知識」、「見守りネットワークに関する知識」があった。『健康管理・主治医に関すること』は「主治医に自分の体について相談できる関係」、「終末期医療・ケアについての主治医との話し合い」があった。

【考察】本研究により個人の日々の備えの先に自分が望む終末期医療の希望を伝える人や方法があることが明らかになった。終末期医療の意思決定に関する啓蒙活動において、家族との関係や主治医との関係、公的サービスを知ることが備えになることを伝えることも重要と考えられた。

本研究における利益相反はない。

本研究は、修士論文の一部を修正したものであり、エンドオブライフケア学会第4回学術集会で発表したものである。

## 演題 4

# 養護教諭講師 1年目の想い

千葉科学大学 看護学部  
大塚朱美

看護学科での養護教諭養成の場合、教育の質保証が課題とされているため、A大学では現職養護教諭と共に学ぶ研修会を行う等の対策を講じてきた。本研究は、A大学の養護教諭養成のあり方を検討するために、養護教諭講師となった卒業生が1年目にどのような想いでいるかを明らかにすることを目的とする。

倫理審査の承認を得て、公立高校の養護教諭講師1名を対象とし面接調査を実施した。質問項目は、「養護教諭になって現在困っていること悩んでいること」である。

始めに知っておきたいことは、学校のルールや社会人マナーであった。相談のしにくさは一人職である組織・体制に関係していた。生徒対応や生徒指導についての葛藤は、経験のなさに起因すると考えられた。困っていることだけでなく意気込みもみられたことから、看護師免許を持っている自負ややるしかないという意気込みが、困ったことがあっても養護教諭を行っている機動力になっていると考えられた。

本研究における利益相反はない。

## 演題 5

# 新型コロナウイルスワクチン接種に対する 看護大学生の自己決定に影響する要因

千葉科学大学 看護学部  
○石田直江 富樫千秋 高橋方子

【目的】看護大学生が新型コロナウイルスワクチン接種の自己決定に影響した要因を明らかにすることである。

【研究方法】看護大学生239人を対象とし、質問紙調査を行った。質問紙の内容は、対象者の背景、新型コロナウイルスワクチン接種自己決定のプロセス、新型コロナウイルスワクチン接種自己決定に影響する要因について①情報源、②相談者、③自己決定の根拠となったこと、④援助要請行動とした。分析方法は、新型コロナウイルスワクチンを『接種することを決めた学生』と『接種しないことを決めた学生』の2群に分け、比較検討した。

【結果】176人の看護大学生より回答があった(回収率73.6%)。有効回答の174人を分析対象とした。『接種することを決めた学生』は158人、『接種しないことを決めた学生』は16人であった。両群を比較したところ、情報源では「大学のホームページ」、自己決定の根拠となったことでは、「病院実習があること」「家族や身近な人にうつしてしまう可能性」「自分が罹患する可能性」、「社会にとって有益であるかどうか」、相談者では、「大学の教員」で統計的有意差があった。

【考察】ワクチン接種の自己決定に影響する要因として、情報源として「大学のホームページ」、根拠となることとして「病院実習があること」等があげられた。その理由として、看護学を学習し、臨地実習にて実際の医療現場を知ること、医療従事者としての自覚が育ちつつあることが考えられる。「大学の教員」への相談は、ワクチン接種をしないと決めた学生は、ワクチン接種をしないことによる不利益について教員に相談していたためと推察される。

本研究における利益相反はない。

本研究は2021年度千葉科学大学学内科研費による助成を受けた。



## 演題 6

# 新型コロナウイルス感染症により 学内実習となった基盤看護学実習 I に対する 学生の思いと今後の課題

千葉科学大学 看護学部

○高橋方子 富樫千秋 米倉摩弥 鈴木康宏

大塚朱美 石田直江 菅谷しづ子

- 【目的】本研究は新型コロナウイルス感染症の影響により基盤看護学実習 I が病院実習から学内実習となった経過を報告するとともに学内実習に対する学生の思いを明らかにすることである。
- 【方法】学内実習となった経過は議事録をもとに作成した。学内実習を履修した看護学部1年生97人を対象とした調査は、無記名自記式質問紙による集合調査とし、量的、質的に分析した。
- 【結果】A大学では感染対策や実習準備の困難、実習施設での受け入れ可否の不確かさから、病院実習を学内実習に変更した。学内実習に対する学生の思いは『よかったという思い』（18人）、『よかった、残念という両方の思い』（29人）、『残念、仕方がないという思い』（13人）の3項目に分類された。
- 【考察】多くの学生が「よかった」という思いを述べていた。学内実習を臨床の方々の講義で構成したことは、学生の学習意欲を刺激し、実習としての学びの質を担保できたのではないかと考える。一方で学生の多くは「残念」という気持ちも抱いていた。よって実習場所が初めて病院となる2年次の基盤看護学実習において、病院で実習をしていないためにわからないというような残念な気持ちが助長されないように調整することが課題と考える。そのためには、実習指導者に学生のレディネスを説明し、学生の状況に合わせた指導を依頼する必要がある。
- 【結論】①学生それぞれが学内実習でもよかったという思いと病院で実習をしたかったという残念な思いの両方を抱えていた。②この両方の思いを次の実習に活かすことができるように、実習目標の見直しや病院の実習指導者と調整することが課題である。③学内の実習は臨床の協力をできるだけ得ることや、実習指導教員を配置しカンファレンスを充実させ、学生が感じたことから学習を深められるような体制をとることが有効である。

本研究に利益相反はない。

本発表は日本看護研究学会第47回学術集会で発表した内容を修正したものである。

# 参加者アンケート集計結果

## ●一般参加者アンケート結果（回収数 22）

職業について	開催方法は適切でしたか			開催時期は適正でしたか				
	人	%	人	%	人	%		
			とてもそう思う	14	63.6	とてもそう思う	11	50.0
			そう思う	7	31.8	そう思う	11	50.0
			どちらとも言えない	1	4.5	どちらとも言えない	0	0
			そう思わない	0	0	そう思わない	0	0
			全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
			無回答	0	0	無回答	0	0
看護師	10	45.5						
保健師	1	4.5						
養護教諭	0	0						
教員	10	45.5						
その他	1	4.5						

資料は見やすいものでしたか	発表の時間は妥当でしたか			講義の時間は妥当でしたか				
	人	%	人	%	人	%		
			とてもそう思う	11	50.0	とてもそう思う	9	40.9
			そう思う	9	40.9	そう思う	12	54.5
			どちらとも言えない	1	4.5	どちらとも言えない	1	4.5
			そう思わない	0	0	そう思わない	0	0
			全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
			無回答	1	4.5	無回答	0	0
とてもそう思う	9	40.9						
そう思う	12	54.5						
どちらとも言えない	1	4.5						
そう思わない	0	0						
全くそう思わない	0	0						
無回答	0	0						

講義は学びを得ることのできる内容でしたか	この会は今後の活動に活かせる内容でしたか			この会にご満足のいただける内容でしたか				
	人	%	人	%	人	%		
			とてもそう思う	14	63.6	とてもそう思う	13	59.1
			そう思う	7	31.8	そう思う	9	40.9
			どちらとも言えない	0	0	どちらとも言えない	0	0
			そう思わない	0	0	そう思わない	0	0
			全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
			無回答	1	4.5	無回答	0	0
とてもそう思う	15	68.2						
そう思う	7	31.8						
どちらとも言えない	0	0						
そう思わない	0	0						
全くそう思わない	0	0						
無回答	0	0						

### 〈希望・意見・感想〉

- ・資料もわかりやすかったですが、発表者の顔が見えると気持ち的に安心できました。
- ・質的記述的研究とは何かとわからなかったのですが、講義を聞き理解できました。
- ・谷津先生のご講義が勉強になりました。研究者の主観を客観視さる、洗い出し段階のコード化は特にです。
- ・質的研究の講演
- ・各発表のまとめ方が学びになった
- ・質的研究についての講義
- ・カテゴリ化の違い、量的研究との違い
- ・講演会が勉強になりました。

- ・事前に資料を提示いただいたこと。
- ・質問的研究について
- ・質的データの分析の洗い出し段階のコード化の仕方
- ・質的研究デザイン
- ・質的研究の特徴

- ・演題 5 スライドの文字数が多いので絞り込んだほうが良いと思います。読ませるのではなく見せる工夫があるといいです。
- ・コロナワクチン接種について、実習に出る、患者への責任意識など、もう少し詳細に知りたいです。
- ・特になし（8名）

- ・尊厳について。
- ・死生観や倫理的な問題などが学べるとよいかと思いました。
- ・時勢にあったとても良い発表内容でした。
- ・色々な研究方法について学べると嬉しいです。
- ・新人教育
- ・質的研究方法論を具体的に、模範となる研究などを用いて教えて欲しいと思いました

- ・参加がしやすいのでよかったです。
- ・距離的な問題がないため参加しやすいと思いました。科学学会などのように、事前に動画でながすなどのオンデマンドでできると勤務調整の必要もなく、参加しやすいのかもしれない。
- ・遠いところからでも参加がしやすく、またスライドも見やすいのが良かったと思います。
- ・開催ありがとうございました。
- ・質的研究の続編など
- ・地域的に限定された研究会なので、感染状況が落ち着いていれば対面が良い
- ・音声が聞き取りやすいとよいと思います
- ・臨床の方も参加しやすいと思います。夜勤明けでの参加を考えると、開始が 10 時位だと講演をききやすいのかもしれない。
- ・時代にあっていてとても良かったと思います
- ・遠方からでも参加出来る

● 学生アンケート結果（回収数 3）

学年について	開催方法は適切でしたか		開催時期は適正でしたか					
	人	%	人	%				
			とてもそう思う	1	33.3	とてもそう思う	1	33.3
			そう思う	1	33.3	そう思う	1	33.3
1年生	0	0	どちらとも言えない	1	33.3	どちらとも言えない	0	0
2年生	3	100	そう思わない	0	0	そう思わない	1	33.3
3年生	0	0	全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
4年生	0	0	無回答	0	0	無回答	0	0

発表の時間は妥当でしたか	講義の時間は妥当でしたか		資料は見やすいものでしたか					
	人	%	人	%	人	%		
とてもそう思う	1	33.3	とてもそう思う	0	0	とてもそう思う	2	66.6
そう思う	1	33.3	そう思う	2	66.6	そう思う	1	33.3
どちらとも言えない	1	33.3	どちらとも言えない	0	0	どちらとも言えない	0	0
そう思わない	0	0	そう思わない	1	33.3	そう思わない	0	0
全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
無回答	0	0	無回答	0	0	無回答	0	0

この会は今後の活動に活かせる内容でしたか	この会にご満足のいただける内容でしたか		講義は学びを得ることのできる内容でしたか					
	人	%	人	%	人	%		
とてもそう思う	1	33.3	とてもそう思う	1	33.3	とてもそう思う	1	33.3
そう思う	2	66.6	そう思う	2	66.6	そう思う	2	66.6
どちらとも言えない	0	0	どちらとも言えない	0	0	どちらとも言えない	0	0
そう思わない	0	0	そう思わない	0	0	そう思わない	0	0
全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0	全くそう思わない	0	0
無回答	0	0	無回答	0	0	無回答	0	0

〈希望・意見・感想〉

- ・質疑応答の質問に対して適切な内容を答えていただけたため理解力に繋がった。
- ・発表して下さる先生方の着眼点や基本的なパワーポイント、話し方など。
- ・レディネスとはどういったものを指すのか
- ・内容や方法に関してわかりにくいことはありませんでした。
- ・新型コロナウイルスという時世にあった発表があり、臨床で実際に起きていること、患者さんや家族が感じていることを身近に感じられました。
- ・時間や日にちを考慮していただけたら視聴しやすいと考える

## ご案内施設一覧

区分	番号	施設名
病院	1	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院
	2	社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院
	3	社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会訪問看護ステーションかみす
	4	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院
	5	医療法人社団善仁会 小山記念病院
	6	社会福祉法人 ロザリオの聖母会 海上寮療養所
	7	地方独立行政法人 さんむ医療センター
	8	地方独立行政法人 東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター
	9	聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院
	10	三省会 本多病院
	11	香取おみがわ医療センター
	12	一般財団法人 銚子市医療公社 銚子市立病院
	13	医療法人積仁会 島田総合病院
	14	国保匝瑳市民病院
	15	千葉県立佐原病院
	16	国保多古中央病院
保健所・ 保健センター	1	銚子市役所 健康づくり課、高齢者福祉課
	2	東庄町 保健福祉総合センター
	3	香取市 健康づくり課
	4	旭市 健康管理課、高齢者福祉課
	5	匝瑳市 健康管理課
	6	神栖市 健康増進課
	7	潮来市 かすみ保健福祉センター
	8	銚子市東部地域包括支援センター
	9	銚子市中央地域包括支援センター

	10	銚子市西部地域包括支援センター
	11	海匝健康福祉センター
	12	香取健康福祉センター
	13	山武健康福祉センター
看護専門学校	1	香取おみがわ医療センター附属看護専門学校
大学	1	千葉科学大学看護学部
	2	千葉科学大学大学院看護学研究科
学校	1	銚子市教育委員会
	2	銚子特別支援学校
	3	銚子商業高等学校
	4	銚子商業高等学校 定時制
	5	銚子高等学校
	6	波崎高等学校
	7	佐原白楊高等学校
	8	東総工業高等学校
	9	小見川高等学校
	10	匝瑳高等学校
	11	匝瑳高等学校 定時制
	12	多古高等学校
	13	松尾高等学校
	14	佐原高等学校
	15	佐原高等学校 定時制
	16	旭農業高等学校
	17	成東高等学校
	18	敬愛大学八日市場高等学校
	19	横芝敬愛高等学校
	20	千葉萌陽高等学校
	21	富里高等学校

22	市立銚子高等学校
23	四街道高等学校
24	印旛明誠高等学校
25	成田西陵高等学校
26	成田国際高等学校
27	成田北高等学校
28	下総高等学校
29	鹿島高等学校
30	柳川高等学校
31	神栖高等学校
32	匝瑳市立八日市場第一中学校
33	銚子市立第一中学校
34	銚子市立第二中学校
35	銚子市立第三中学校
36	銚子市立銚子西中学校
37	銚子市立銚子中学校
38	銚子市立清水小学校
39	銚子市立飯沼小学校
40	銚子市立明神小学校
41	銚子市立本城小学校
42	銚子市立春日小学校
43	銚子市立高神小学校
44	銚子市立海上小学校
45	銚子市立船木小学校
46	銚子市立椎柴小学校
47	銚子市立豊里小学校
48	銚子市立双葉小学校
49	匝瑳市立吉田小学校
50	船橋市立夏目台小学校

	51	千葉県立大原高等学校
	52	茨城県立日立工業高等学校
	53	船橋市立前原中学校

\*病院：16、保健所・保健センター：13、看護専門学校：1、大学：2、学校：53 計 85施設



## 看護実践連携研究会 役員名簿

氏名	所属・役職
大塚 玲子 (会長)	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院・看護局長
井上 純子	地方独立行政法人 さんむ医療センター・看護部長
岩出 昌子	社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院・看護部長
岩間 由起子	医療法人社団善仁会 小山記念病院・看護部長
岡根 恵子	銚子市健康づくり課・保健事業室長
谷川 秀子	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院 ・副看護部長
堀越 佳代	国保多古中央病院・総看護師長
安藤 智子	学校法人加計学園 千葉科学大学・看護学部長
梶原 睦子	学校法人加計学園 千葉科学大学大学院 看護学研究科長

(順不同・敬称略)

## 看護実践連携研究会 企画・実行委員

---

氏名	所属領域・役職
高橋 方子（委員長）	基盤看護学 教授
上杉 英生	成人看護学 准教授
久木元 理恵	小児看護学 准教授
高橋 玲子	公衆衛生学 講師
丹野 志保	老年看護学 講師
森下 恵美	成人看護学 助教
石田 直江	基盤看護学 助教

（順不同・敬称略）

# 看護実践連携研究会のあゆみ

<b>■ 平成 26 (2014) 年度</b>		
平成 26 年 10 月 23 日 ～12 月 9 日	インタビュー調査の実施 千葉科学大学看護学部が千葉県北東地区・茨城県南東地区ならびに実習施設看護管理者を対象に、病院看護管理者、行政保健師、養護教諭の実践活動の向上に向けての取り組みとその課題のインタビュー調査実施	
平成 27 年 1 月 31 日	第 1 回発表会・看護実践連携会発足 千葉科学大学看護学部において、インタビュー調査報告会を実施（第 1 回発表会） 同日、看護実践連携研究会発足	
<b>■ 平成 27 (2015) 年度</b>		
平成 27 年 5 月 23 日	第 1 回研修会 テーマ「看護実践のエビデンスを抽出しよう」	参加者 86 名 再) 一般：67 名 教員：19 名
平成 27 年 8 月 1 日	第 2 回研修会 テーマ「看護実践のエビデンスを抽出しよう」	神栖済生会病院 看護職対象
平成 27 年 11 月 28 日	第 2 回発表会 テーマ「看護実践のエビデンスを共有しよう」	参加者 205 名 再) 一般：94 名 学生：86 名 教員：19 名 他：6 名
<b>■ 平成 28 (2016) 年度</b>		
平成 28 年 5 月 26 日	第 3 回研修会 テーマ「論文クリティークを学ぼう」	参加者 88 名 再) 一般：56 名 教員：32 名
平成 28 年 11 月 26 日	第 3 回発表会 テーマ「看護実践と研究の関係を実感しよう」 【共同研究発表演題数 17 題】	参加者 174 名 再) 一般：87 名 来賓：3 名 学生：55 名 教員：29 名

■ 平成 29 (2017) 年度		
平成 29 年 5 月 13 日	第 4 回研修会 テーマ「実践現場における研究倫理」	参加者 170 名 再) 一般 : 58 名 学生 : 80 名 教員 : 32 名
平成 29 年 11 月 25 日	第 4 回発表会 テーマ「看護実践の知を共有しよう！」 レクチャー「院内デイケア」 【共同研究発表演題数 13 題】	参加者名 152 名 再) 一般 : 46 名 来賓 : 4 名 学生 : 73 名 教員 : 29 名
■ 平成 30 (2018) 年度		
平成 30 年 5 月 26 日	第 5 回研修会 テーマ「質問紙調査の基礎～アンケートの作り方」 個別相談申込 10 件 (うち、当日相談 8 件)	参加者 : 138 名 再) 一般 : 72 名 学生 : 36 名 教員 : 30 名
平成 30 年 11 月 24 日	第 5 回発表会 テーマ「地域をつなぐ看護の力！」 シンポジウムテーマ 「地域包括ケアを実践しての現状と課題」 シンポジスト 4 名、【発表演題 9 題】	参加者 : 137 名 再) 一般 : 42 名 来賓 : 3 名 学生 : 62 名 教員 : 30 名
■ 令和元 (2019) 年度		
令和元年 5 月 25 日	第 6 回研修会 テーマ「研究目的の設定と調査・分析の進め方」	参加者 : 91 名 再) 一般 : 54 名 学生 : 9 名 教員 : 28 名
令和元年 11 月 23 日	第 6 回発表会 テーマ「超高齢社会を支える看護の挑戦」 シンポジウムテーマ 「地域で支える認知症」 シンポジスト 2 名、【発表演題 9 題】	参加者 : 142 名 再) 来賓 : 3 名 一般 : 42 名 学生 : 67 名 教員 : 30 名

■ 令和2（2020）年度		
令和2年 11月28日	第7回研修会&発表会 オンライン開催 テーマ「看護研究のスキルを高める」 【発表演題3題】	オンライン：50 アクセス 会場：20名
■ 令和3（2021）年度		
令和3年 11月27日	第8回研修会&発表会 オンライン開催 テーマ「Let's 看護研究 看護研究の基本を 学ぼう！」 【発表演題6題】	オンライン：49 アクセス 会場：26名
■ 令和4（2022）年度		
令和4年 11月26日	第9回研修会&発表会	

# 看護実践連携研究会 申し合せ

## <目的>

千葉科学大学看護学部と千葉県北東地区・茨城県南東地区の関係機関ならびに実習施設が対等の立場で連携し、看護実践及び看護学教育の質向上に向けての研究、研修会ならびに研究発表会を実施する。

## <組織>

1. 当該研究会は千葉科学大学看護学部教員ならびに前述の地域関係機関の保健師・助産師・看護師・養護教諭・看護教員等を会員として組織する。
2. 会員は施設会員と個人会員の2種類とする。
3. この研究会は役員会と委員会をおくものとする。
4. 役員会は看護実践連携研究会の運営に関する事項を担う。
5. 役員会は前項の職種代表者数名、委員会によって構成する。
6. 役員会には会長1名、副会長3名を置く。
7. 会長・副会長は、役員会のメンバーの互選によって選出する。
8. 委員会は千葉科学大学教員で構成する。
9. 委員会は委員長1名、委員を数名置く。
10. 委員会は役員会より付託された事項に関し、企画・運営をする。
11. 委員会は共同研究に関して学部内担当者を調整する。

## <任期>

役員・会長・副会長、委員長・委員の任期は2年とし、欠員が生じた時の補充者の任期は前任者の残任期間とする。

## <総会>

年に1回総会を開催する。

## <役員会>

年1回役員会を開催する。また会長が必要とした場合、臨時役員会を開催する。

## <研修会>

研修会は看護の課題を解決するための手法や専門的知識や技術を習得することを目的として毎年1回開催し、報告書の発刊により周知をはかる。

## <発表会>

発表会は地域の看護実践、看護学教育の質向上と地域の連携のための情報交換を目的として毎年1回開催する。大学と地域関係機関との連携による研究成果は、発表会を持って公表し、報告書の発刊により周知をはかる。

<所掌事項>

1. 看護実践・看護学教育の質の向上に向けて大学と地域関係機関との共同研究、共同研究成果発表会・研修会の開催、報告書の発刊
2. 看護実践・看護学教育の質の向上に関わる啓発活動
3. 運営上必要な人事・予算に関すること

附則

本申し合せは平成28年5月21日から施行する。

本申し合せは平成30年11月24日から施行する。

令和3年度 第8回看護実践連携研究会研修会&発表会報告書

2022年1月27日

発行 千葉科学大学看護学部 看護実践連携研究会委員会

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15番地8